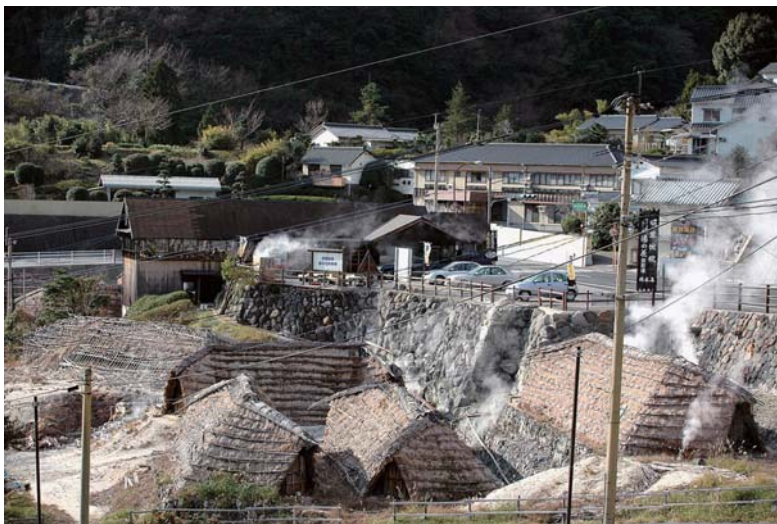


未来への遺産



鉄輪の湯けむり



明礬温泉の湯の花採取小屋（湯の花製造技術は国の重要無形民俗文化財）

大分県 別府の湯けむり景観

別府温泉の歴史は古く、「伊予国風土記」には、「神代の昔、少彦名命と大国主命が伊予の国を訪れたとき、少彦名命が病で倒れ仮死状態となった。嘆き悲しんだ大国主命は、豊後水道の海底に長い管を敷いて、大分速見の湯（別府）

同じく現在の「鉄輪温泉」付近に当たる「久倍理湯の井」等の記載があり、風土記の編纂された八世紀当時からこの地に温泉があることが知られていたようです。

別府温泉は、源泉数が二千五百九十七、湧

温泉のこと）を道後へ運び、少彦名命を湯浴みさせ、病気が回復した。」と記されており、道後温泉の起源とされています。また、「豊後国風土記」には、現在の「血の池地獄」に当たる「赤湯の泉」や、



海地獄（国の名勝）



血の池地獄（国の名勝）

出量が九万四千十三kl/日（平成十九年・環境省）で、源泉数、湧出量共に日本一となっています。二〇〇一年にNHKが実施した「21世紀に残したい日本の風景」では、「別府の湯けむり」は富士山に次いで二位になりました。また、二〇〇九年七月には、「別府の地獄」として、「海地獄」、「血の池地獄」、「白池地獄」、「龍巻地獄」の四つの源泉が国の「名勝」に指定されています。

別府では、四百本を超える湯けむりが毎日立ちのぼっています。「別府湯けむりライブカメラ」で撮影した湯けむりの映像が、リアルタイムでインターネットでも配信されています。神代の昔からの別府温泉の貴重な景観を末永く未来へと引き継いでいきたいと思えます。

お問い合わせ

大分県企画振興部景観自然室

TEL 〇九七―五三六―一一一